

「寄付してください」って話じゃないんです。

76,800,000,000円（768億円）

遺言♡寄付
Webセミナー



日本人が亡くなって、行き先がないために、**国庫に入った1年分のお金。**

このお金を、社会貢献活動団体や、過疎化が進む故郷のために、もっとダイレクトに活用できる方法はないだろうか？

私たちは、自分の意志でできる最期の社会貢献、「遺言♡寄付」（遺贈寄付）を活用し、支援すべき団体に、活動のエネルギーともいえる「お金」を届けたいと考えました。

この「遺言♡寄付」を必要としている団体は日本国中にあります。

しかし、その大前提となっている「遺言」

私たちは相続によるトラブル「争族・争続」を撲滅するために「遺言を文化にしよう」と立ち上がった団体です。

ほとんどの日本人が加入している「生命保険」は「文化」ともいえる「あたりまえ」のレベルに対し遺言を作るために必要な**リテラシー教育**を、ほとんどの日本人が受けていない。

法律のことや税金のこと、お金、不動産、保険、そして相続のことなど、**必要な情報を学校では教えない。**

「おひとりさま」だとどうなるのか？「離婚」するとどうなるのか？

「**残すべき人がいない**」ときはどうなるのか？「**残したくない人**」がいるときはどうすればいいのか？

生きていうちのお金はもちろん大切ですが、亡くなってからのお金のことも、ちゃんと理解すべきではないかと思うのです。

私のひとり娘には知的障害があります。大きなお金を管理したりコントロールすることができません。

そのため「**親なき後問題**」特に「お金の問題」についての研究を始めました。

いろいろサキヨミする中でたどり着いた「守りたい人」が**先立つことを想像**したとき

「遺言♡寄付」という考え方にたどり着きました。

守りたい人がいない方や、守るべき人を先に失った方が、

最期に「**優しい気持ち**」と「**寂しい気持ち**」と「**悲しい気持ち**」の入り混じった「遺言♡寄付」

ポジティブな意志ではなくネガティブな感情から生まれることが多い「遺言♡寄付」

最期の想いを実現することにより**ネガティブな感情を「浄化」**できるのではと考えたのです。

しかし、「遺言♡寄付」を決断するにあたり、

その前に立ちかかる、さまざまな法律やルール、トラブル要因、そして、その解決方法。

このことを、その「遺言♡寄付」を必要とする団体の役員やスタッフの皆様へ、

「**仕組み**」や「**注意点**」についてお伝えしたいと考え、このWebセミナーを企画しました。

さらに、皆様の会員や支援者の皆様にもご覧いただくことにより、

新しい**日本らしい寄付文化**を育てていきたいと考えました。

【Webセミナータイトル】

学校では教えない「遺言♡寄付」のすすめ

～もったいないとほっとけない～

登壇者の一人である、認定NPO法人おてらおやつクラブ代表の松島靖朗さんの言葉が私たちの心に響き、このWebセミナーの副題とさせていただきます。

「**もったいない**」と「**ほっとけない**」

大切な社会貢献活動を頑張っている団体はたくさんたくさんあると思うのです。

より良い社会を作るために活動をしている、そんな団体を応援したい。

私たちが「**地球のために出来ること**」を本気で一緒に考えたいと思ったのです。

綺麗ごとには聞こえるかもしれませんが、それを実現するためにも「お金」が必要です。

遺言♡寄付（ゆいごんきふ）としたのは「遺言」と「寄付」を「♡（愛）」でつなぎたいと本気で思ったからです。

もう一人の登壇者、認定NPO法人テラ・ルネッサンス創設者の鬼丸昌也さんの言葉

私たちの活動は

「**微力だが無力ではない**」

「**微力は集まれば勢力になる**」

遺言♡寄付の文化を作ります。

日本相続知財センターグループ
鹿内幸四朗

